

令和5年度 指定管理施設評価票

1 基本情報

(令和6年3月31日時点)

施設名	港区立北青山高齢者在宅サービスセンター						
指定管理者	社会福祉法人東京聖労院						
指定期間	令和	4	年	4	月	1	日 ~ 令和 9 年 3 月 31 日
募集方法	公募	グループ化の有無	○	利用料金制の採用	○	使用許可権限の付与	－
施設所管課	保健福祉支援部高齢者支援課						

2 職員体制

(単位：人)

	正規	常勤	非常勤	非正規	常勤	非常勤	委託（シルバー人材センター等）	合計
職員数	10	10	0	7	1	6	0	17
	令和4年度		令和5年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	備 考	
正規・非正規職員の退職者数	2		2					

3 指定期間における事業実績

事業実績	令和4年度	令和5年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	備 考
延利用者数（人）	7,066	8,864				

4 指定期間における経費実績

(単位：円)

項 目		令和4年度	令和5年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	備 考
経費実績	収入	125,419,866	154,755,811	0	0	0	
	指定管理料（清算後）	57,345,332	57,087,365				
	利用料金収入	67,678,386	97,367,626				
	その他収入	396,148	300,820				
	支出	155,749,785	153,101,014	0	0	0	
	職員人件費	86,435,279	84,422,285				
	光熱水費	10,310,557	7,018,962				
	修繕費	3,851,083	3,901,557				
	事業運営費	15,077,898	18,712,591				
	施設管理経費	18,304,600	28,343,313				
	その他経費	21,770,368	10,702,306				
差引収支額		-30,329,919	1,654,797	0	0	0	
年度協定書で定める指定管理料		62,759,412	59,285,356				

5 管理運営状況に対する評価

項目	評価視点	指定管理者による評価	区による評価		
			評価	加算	点数
【施設の維持管理】	① 設備機器の保守管理	仕様書等に従い、適切に設備機器の保守管理が行われ、利用者の安全・安心が確保されていたか。	5 / 5	×1	5 / 5
	② 清掃及び衛生管理	仕様書等に従い、適切に清掃及び衛生設備の保守管理が行われ、施設が清潔に保たれていたか。	5 / 5	×1	5 / 5
	③ 修繕対応	迅速に修繕がなされ、利用者の安全・安心が確保されていたか。	5 / 5	×1	5 / 5
【事業運営】	④ サービスの向上	事業計画書で定めた事業を適切に実施するとともに、公募時の提案や利用者に声を事業に反映するなどサービス向上を図っていたか。	5 / 5	×5	25 / 25
	⑤ 職員配置	事業計画書等で定めたとおり、必要な知識や技能を持った職員が適正に配置されていたか。	5 / 5	×2	10 / 10
	⑥ 人材育成	施設長や職員に対する研修などにより、サービスの向上に向けたスキルアップに取り組んでいたか。	5 / 5	×1	5 / 5
	⑦ 労働環境	区が定める最低賃金水準額を遵守するとともに、ハラスメントが通報されないなど、職員にとって良好な労働環境が確保されていたか。	5 / 5	×2	10 / 10
	⑧ 安全管理・危機管理	施設の日常安全点検を実施するとともに、災害や事件・事故発生時の体制や対応の確立などにより、利用者の安全・安心が確保されていたか。	5 / 5	×3	15 / 15
	⑨ 個人情報保護・情報セキュリティ	個人情報や情報セキュリティの社内規程を整備し、区の規程とともに遵守して、適正に運用していたか。	3 / 5	×1	3 / 5
	⑩ 区施策への協力	高齢者や障害者の雇用促進、区内事業者の活用、施設の省エネ促進等、区の施策を理解し積極的に協力していたか。	5 / 5	×3	15 / 15
区による評価合計点					98 / 100

【各項目の評価について】

5点：当該項目に係る事項については、充実した取組が展開されていた。

3点：当該項目に係る事項については、概ね適切に取り組んでいた。

1点：当該項目に係る事項については、更なる取組の推進が必要であった。

※複合施設の入居施設等で、当該施設の指定管理者が設備機器の保守管理等を直接実施していない場合、該当項目は「－：評価対象外」とします。

指定管理者による自己評価	「稼働率」について、昨年度は立ち上げ初年度ということもあり51%でありましたが、令和5年度は64.8%と大幅にUPすることができました。その要因として、入浴環境、特に、研修や勉強会を通じて介護職員の育成に努めたことで、1日の平均入浴者数が3割ほど伸びたことが上げられます。 令和5年度は、連絡ノート（利用者の健康情報記載）の誤渡し事故が発生しました。個人情報保護に関してはハード面の対策だけでなく、月1回、全職員に連絡ノートの実際の受け渡し手順を確認するなど、再発防止を徹底していきます。 認知症ケアレベルの向上を目的として、外部講師による年4回の職員研修を実施しました。認知症の方のアセスメント～回想法を活用したケアの充実～事例検討による振り返りを中心に行い、認知症対応型通所介護の稼働率が年度初めと年度末で2割程度伸ばすことができました。今後も認知症ケア向上に取り組んでいきます。
区（施設所管課）による評価	令和5年度は改修工事がありましたが、令和4年度と比べ、延利用者数が増加しています。特に、認知症対応型通所介護においては、充実した職員研修を実施できたこともあり、年度末の稼働率は、年度当初に比べて伸ばすことができましたことは評価できます。次年度以降においても、さらなる利用者数の増加に向けて取り組んでください。 個人情報の保護について、連絡ノートの誤受け渡しが発生しています。職員間によるダブルチェックや、マニュアルの見直しなど、再発防止策の徹底に向けて、区として指導していきます。

6 評価

令和5年度の管理運営に関する総合評価

S

【総合評価について（項番5における区による評価合計点の得点率）】

S：施設の管理運営は特に優れていた（90%以上）

A：施設の管理運営は優れていた（80%以上90%未満）

B：施設の管理運営は適切に行われていた（60%以上80%未満）

C：施設の管理運営に改善が必要であった（60%未満）